

病害虫情報(第9号)12月予報

令和7年11月28日
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463 - 58 - 0333
ホームページ <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

【内容】

- I 12月の主な病害虫の発生予報、防除要否、使用する薬剤例 1
【水稲、カンキツ、促成イチゴ、促成トマト、キャベツ、ダイコン】
 - II 12月の気象予報と病害虫発生予報の根拠 5
- 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、遵守すべき基準を守り、飛散防止に努めましょう。
- 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。
- ※ 農薬に関する情報は、令和7年11月25日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

I 12月の主な病害虫の発生予報、防除要否、使用する薬剤例

【水 稲】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖ 防除のポイント
縞葉枯病	－	－	❖ 9月調査では、縞葉枯病の発生は平年よりやや少ない。媒介虫のヒメトビウンカの越冬場所を減らすため次の対策を実施する。 ①「ひこばえ」や水田内雑草をすき込む。 ②畦畔や休耕田の除草を徹底する。
スクミリンゴガイ	－	△	❖ スクミリンゴガイの生存率を下げる目的で次の対策を実施する。 ①冬期に水田を複数回耕起すると殺貝効果が高い。耕うんは走行速度を遅くし、ロータリーの回転を速くして浅く細かく耕す。 ②休耕田も発生源になるので、できるだけ①の対策を実施する。 ③未発生水田への貝の持ち込みを防止するため、トラクターなどに付着した泥は使用後に洗浄する。他水田でも使用する場合は、未発生水田の耕起を先に行うなど順番を考慮する。 ④用排水路で生存している貝の対策として泥上げを行う。地域全体で実施すると効果が高い。 ❖ 詳細は、以下の防除対策資料を参照すること。 神奈川県スクミリンゴガイ防除対策マニュアル（農業技術センター）

【カンキツ】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖ 防除のポイント
ハダニ類 ミカンハダニ	やや少	○	マシン油乳剤(95%, 97%, 98%) ❖ マシン油乳剤は商品によって使用基準が異なるので、ラベルの記載に従うこと。
カイガラムシ類	－	○	❖ 12月下旬～1月中旬の冬期に防除する。ただし、この時期に防除できなかった園では、ハダニ類を対象に収穫後の春期に防除する。 ❖ カイガラムシ類発生園では、冬期の散布を厳守する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報（令和7年度・第9号・12月） 神奈川県農業技術センター

【促成イチゴ】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント
うどんこ病	やや少	○	(予) インプレッションクリア [発病前～発病初期,－] 1,000～2,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [前日(生育期),5回] 2,000～4,000倍 (予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日,2回] 2,000倍 ☞ パンチョTFは混合剤。総使用回数に注意する。 (治) カリグリーン [前日,－] 800～1,000倍 (治) サンクリスタル乳剤 [前日,－] 300～600倍 (治) サフオイル乳剤 [前日,－] 300倍 (治) エコピタ液剤 [前日,－] 100倍 等
アブラムシ類	並	○	ベネビアOD [前日,3回] 2,000倍 チェス顆粒水和剤 [前日,3回] 5,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日,－] 300倍 サフオイル乳剤 [前日,－] アブラムシ類:300～500倍 コナジラミ類:300倍 エコピタ液剤 [前日,－] アブラムシ類:100倍 コナジラミ類:100～200倍 等
コナジラミ類 タバココナジラミ オンシツ コナジラミ	並 やや少	○ ○	
アザミウマ類	並	○	ベネビアOD [前日,3回] 2,000倍 マッチ乳剤 [前日,4回] 1,000～2,000倍 プレオフロアブル [前日,4回] 1,000倍 等
ハダニ類	並	○	ダニオーテフロアブル [前日,2回] 2,000倍 スターマイトフロアブル [前日,2回] 2,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日,－] 300～600倍 サフオイル乳剤 [前日,－] 300～500倍 エコピタ液剤 [前日,－] 100倍 等 ❖ ダニオーテフロアブルは、銅を含む製剤との混用および近接散布に 注意が必要である。必ず、ラベルの注意事項を確認すること。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

- ▶ 訪花昆虫・天敵を利用する際は使用薬剤の影響日数に注意して薬剤の選択を行う。

▶ 農薬散布の際は、ミツバチ巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報（令和7年度・第9号・12月） 神奈川県農業技術センター

【促成トマト】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント										
灰色かび病	－	○	(予) ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期,－:ダクト内投入] 7.5～15g/10a/日 (予) セイビアーフロアブル20 [前日,3回] 1,000～1,500倍 等										
アブラムシ類	－	○	【育苗期後半～定植時:粒剤施用または灌注】 プリロツソ粒剤オメガ [育苗期後半～定植時,1回:株元散布] 2g/株 又は、ベリマークSC [育苗期後半～定植当日,1回:灌注] 原液25mlを10～20Lに希釈/400株 ☞ 上記2剤は有効成分が同じであるため、どちらかを使用する。 【定植時:粒剤施用】 モスピラン粒剤 [定植時,1回:植穴土壌混和] アブラムシ類、コナジラミ類:1g/株 ダントツ粒剤 [定植時,1回:植穴処理土壌混和] 1～2g/株 【定植後:散布】 アニキ乳剤 [前日,3回] コナジラミ類、ミカンキイロアザミウマ:1,000～2,000倍 モスピラン顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000倍 グレーシア乳剤 [前日,2回] コナジラミ類、アザミウマ類:2,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日,－] アブラムシ類、コナジラミ類:300倍 ベミデタッチ [前日,－] コナジラミ類:500倍 等 ☞ ベミデタッチは成虫飛来前や発生初期に使用し、7日間隔で複数回散布する。 ❖ 生育初期にウイルス病に感染すると被害が大きくなるため、害虫防除を徹底する。 <table><tr><th>発生するウイルス病</th><th>媒介する害虫</th></tr><tr><td>CMV等(トマトモザイク病)</td><td>アブラムシ類</td></tr><tr><td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td><td rowspan="2">コナジラミ類</td></tr><tr><td>ToCV(トマト黄化病)</td></tr><tr><td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td><td rowspan="2">アザミウマ類</td></tr><tr><td>CSNV(トマト茎えそ病)</td></tr></table> ❖ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。 ❖ 施設内外の雑草は、害虫の発生・増殖源になるため、除草を徹底する。 ❖ 施設開口部に0.4mm目合い以下の防虫ネットを2重被覆する。	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(トマトモザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)	TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	CSNV(トマト茎えそ病)
発生するウイルス病	媒介する害虫												
CMV等(トマトモザイク病)	アブラムシ類												
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類												
ToCV(トマト黄化病)													
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類												
CSNV(トマト茎えそ病)													
コナジラミ類 タバココナジラミ	－	○											
アザミウマ類	－	○											

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

- ▶ 訪花昆虫・天敵を利用する際は使用薬剤の影響日数に注意して薬剤の選択を行う。
- ▶ 農薬散布の際は、マルハナバチ巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

▼三浦半島地区野菜▼

【キャベツ】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント
菌核病	並	○	(予・治) カンタスドライフロアブル [7日,2回] 1,500倍 (予・治) アミスター20フロアブル [前日,4回] 2,000倍 等
			❖ 発病株は菌核が形成される前に処分する。 ❖ 下葉からの感染が多いため、薬剤は株元にかかるように散布する。
コナガ	やや少	○	スピノエース顆粒水和剤 [3日,3回] 2,500～5,000倍 エスマルクDF [発生初期(但し、前日),－] 1,000～2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【ダイコン】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント
黒斑細菌病	並	○	(予) Zボルドー [－,－] 500倍 (予) マスタピース水和剤 [前日,－]1,000～2,000倍 (予・治) カセット水和剤 [14日,3回] 1,000倍 等
			☞ カセットは混合剤である。総使用回数に注意する。 ❖ Zボルドーで薬害が懸念される場合は、クレフノン(100～200倍)を加用する。
白さび病 (ワッカ症)	並	○	(予・治) アミスター20フロアブル [14日,3回] 2,000倍 (予・治) ランマンフロアブル [3日,3回] 2,000倍 等
アブラムシ類	やや多	○	ベストガード水溶剤 [7日,3回] 1,000～2,000倍 モベントフロアブル [7日,3回] 2,000～4,000倍 等
コナガ	やや少	○	スピノエース顆粒水和剤 [7日,3回] 2,500～5,000倍 エスマルクDF [発生初期(但し、前日),－] 1,000～2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病虫害情報 (令和7年度・第9号・12月) …… 神奈川県農業技術センター

Ⅱ 12月の気象予報と病虫害発生予報の根拠

(1) 12月の気象予報(気象庁 11月25日発表3か月予報)

〈天 気〉

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	30%	30%	40%
降 水 量	50%	30%	20%
日照時間*	10%	30%	60%

*11月20日発表1か月予報による。

(2) 12月の病虫害発生予報の根拠

作物名	病虫害名	発生量		予 報 の 根 拠
		程度	平年比	
カンキツ	ミカンハダニ	—	やや少	1) 県予察ほ(根府川)では、無防除区で発生が平年より少なく、慣行防除区で発生が平年よりやや少ない。(—) 2) 10月の巡回調査では、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年並、降水量は平年より少ない予報。(±)
促成イチゴ	うどんこ病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(—) 2) 気温は平年並、降水量は平年より少ない予報。(±)
	アブラムシ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(平塚)の黄色水盤への飛来量は、平年よりやや少ない。(—) 3) 気温は平年並、降水量は平年より少ない予報。(±)
	オンシツコナジラミ タバココナジラミ	少 少	やや少 並	1) 巡回調査では、オンシツコナジラミの発生は平年よりやや少なく(—)、タバココナジラミの発生は平年並(±)。 2) 気温は平年並、降水量は平年より少ない予報。(±)
	アザミウマ類	少	並	1) 青色粘着板(平塚、大磯)への誘殺虫数は、ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマともに平年並。(±) 2) 気温は平年並、降水量は平年より少ない予報。(±)
	ハダニ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(—) 2) 気温は平年並、降水量は平年より少ない予報。(±)

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (+): 多発要因 (—): 少発要因

病虫害情報

(令和7年度・第9号・12月)・・・神奈川県農業技術センター

三浦半島地区野菜

作物名	病虫害名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
キャベツ	黒腐病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並、降水量は平年より少ない予報。(±)
	菌核病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並、降水量は平年より少ない予報。(±)
ダイコン	黒斑細菌病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 気温は平年並、降水量は平年より少ない予報。(±)
	白さび病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並、降水量は平年より少ない予報。(±)
	アブラムシ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 県予察ほ(三浦)の黄色水盤への飛来量は、平年より多い。(+) 3) 気温は平年並、降水量は平年より少ない予報。(±)
	ナモグリバエ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(三浦)の黄色粘着板への誘殺数は平年より少ない。(－) 3) 気温は平年並、降水量は平年より少ない予報。(±)
アブラナ科野菜	コナガ	－	やや少	1) 巡回調査では、キャベツで発生が平年より少なく、ダイコンで平年よりやや少ない。(－) 2) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦では平年よりやや少なく、県予察ほ(三浦)では平年より少ない。(－) 3) 気温は平年並、降水量は平年より少ない予報。(±)
	ハスモンヨトウ	－	並	1) キャベツの巡回調査では、ヨトウムシ類の発生が平年並。(±) 2) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦では平年より少なく(－)、県予察ほ(三浦)では平年より多い(+)。 3) 気温は平年並、降水量は平年より少ない予報。(±)
	オオタバコガ	－	並	1) キャベツの巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦では平年並(±)、県予察ほ(三浦)では平年より多い(+)。 3) 気温は平年並、降水量は平年より少ない予報。(±)

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」………… (＋): 多発要因 (－): 少発要因

(別表)

耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。

★トマト★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(トリフミン)の場合:1作2回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(テーク、パンチョ)の場合:1作3回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、ベトファイター)の場合:1作2回

★イチゴ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(スコア、トリフミン、ラリー)の場合:1作1回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
 - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回